

2011年8月5日
東日本旅客鉄道株式会社

2012年3月期 業績に関する説明会 主なQ&A

Q: 東北新幹線において、被災地の復興需要を含めてご利用状況はどうか。

A: 被災地復興に関する需要を把握することは難しいですが、東北新幹線のご利用を数ポイント程度押し上げている可能性があります。なお、東日本パスについては、約56万枚のご利用があり、需要を誘発する効果があったと考えています。

Q: コストの抑制余地をどのように考えているのか。

A: コストのあり方をゼロベースで検討しており、JR東日本グループ全体での見直しを始めたところです。コストを減らす余地はあると考えています。

また、老朽化した設備の取替に際し、スリム化に力を入れていきます。短期間では効果が出にくいかもしれませんが、中長期的には重要なことと考えています。

Q: 東日本大震災により津波の被害を受けた線区の復旧について、議論の進捗を教えてください。

A: 仙石線では矢本～石巻間が7月16日に運転を再開しました。また、八戸線では階上～種市間が8月8日に運転を再開する予定であり、種市～久慈間は2012年度初の運転再開を目指すことにしています。

それ以外の線区では、駅舎・線路・橋げたの流失・埋没等、深刻な被害が確認されています。復旧には大規模な工事が必要となるほか、地域全体の復興や「まちづくり」の計画との整合も必要となることから、国・地方自治体と協議しながら進めていきたいと考えています。ご支援・ご協力をお願いするために国土交通大臣宛に要望書を提出しております。

以上